中日新聞

男声合唱 聴衆酔わす

南山・上智大OBら 22年ぶり共演

合同ステージで「富士山」を歌うOBら＝東海市の市芸術劇場で

カトリック系が縁で交流のある、男声合唱の南山大メイルクワイヤーと東京の上智大グリークラブの交歓演奏会（中日新聞社など後援）が十二日、東海市の市芸術劇場で開かれた。二十二年ぶりの復活となった演奏会には両団から約百十人が出演し、約七百人の聴衆が聞き入った。

曲目はミサ曲や黒人霊歌、合唱組曲「水のいのち」「月下の一群」「富士山」。合同ステージの「富士山」には、両団OBと上智の現役学生を合わせ百人を超えるメンバーが登場。低音パートが富士山の大地を力強く重厚なハーモニーで表現し、高音パートはゆったりと「日本一の山」の荘厳さを響かせた。最後に、雨雲と夕映えの富士山が織りなす情景が表情豊かに歌い上げられると、大きな拍手が湧き起こった。

両校は一九六一年から東京と名古屋で交互に合同演奏会を開いてきたが、部員の減少により九六年を最後に中断していた。南山大は昨年三月に部員がゼロとなり、現役の活動も停止している。

南山大メイルクワイヤーOB会長の小沢善隆さん(七〇)＝中川区＝は「演奏会をOBだけで楽しむのではなく、現役復活への起爆剤としたい」と力を込めた。上智大OB合唱団代表の斉藤久志さん(六五)＝東京都練馬区＝は「（富士山は）歌いがいのある合同曲。持てるものを出して歌うことができた」と満足げに話した。

（石田嘉隆）

毎日新聞 2018年8月14日（火）

南山・上智大

22年ぶり交流

東海 男声合唱演奏会に110人

22年ぶりに復活した交歓演奏会で、合唱する南山大メイルクワイヤーと上智大グリークラブのOBら＝東海市で

男声合唱団の南山大学メイルクワイヤー（名古屋）と上智大学グリークラブ（東京）のOBや現役部員による交歓演奏会（毎日新聞社など後援）が12日、東海市の市芸術劇場で開かれた。22年ぶりの両大の交流となり、男声合唱の豊かな声量と細やかな表現力で聴衆を魅了した。

両大OBと上智の現役部員合わせて約110人が参加。合唱組曲などのほか、1961年の第1回交歓演奏会で歌った「富士山」などを歌い上げた。南山大OB会会長の小澤善隆さん(70)は「双方のOBの思いで交流が復活し、万感の思いで歌った。現役の学生に合唱の素晴らしさが届けば」と話し、上智大OB合唱団代表の斉藤久志さん(65)も「現役のころは毎年行き来していた。最近は部員が減少し寂しいが、これを機会に盛り上がってくれれば」と交流継続に意欲を示した。

両大はカトリック系大学の縁で、61年の第1回から96年の第31回まで交歓演奏会を開催していた。しかしその後は部員の減少で交流が途絶え、南山大では昨年度に部員ゼロで廃部となった。

【林幹洋】